

OECD/NEAによるジェンダー・バランス改善活動への 岡田原子力委員会委員の参加報告

令和7年1月28日

内閣府原子力政策担当室

[1] 「原子力分野におけるジェンダー・バランス改善のためのハイレベルグループ(HLG-GB)」 第2回全体会合出席のための海外出張

1. 出張先
フランス共和国(パリ)

2. 出張期間
令和6年9月17日～21日

3. 渡航目的

経済協力開発機構(OECD)原子力機関(NEA)は、2023年6月にOECD閣僚理事会が発出した原子力分野でのジェンダー・バランス改善を求める勧告*に基づき、2024年から3年間のマンドートを持ったハイレベルグループ(HLG-GB)を立ち上げた。それまで活動していたタスクグループ(TG-GB)を改組したもので、岡田委員は引き続き日本政府を代表してこれに参加。同グループの幹事会に相当するビューロメンバーにも選出された。9月18日～20日にわたり、第2回となる全体会合が、パリ OECD カンファレンスセンターにて、閣僚級会合“Roadmaps to New Nuclear(新しい原子力へのロードマップ)”**と並行して対面開催されたため、他の出席者と共に出張した。

HLG-GBの具体的な活動は、Attract(勧誘)、Retain(保持)、Advance(前進)、Data(データ)のタスクフォース(TF)を設けて実施しており、各TFの共同議長も出席した。

Attract TFの共同議長は、日本原子力研究開発機構(JAEA)核不拡散・核セキュリティ総合支援センター(ISCN)井上尚子センター長が務めていたが、JAEA 原子力人材育成センター 生田優子副センター長に交代することとなったため、この両名が出席した。また、今後の協力に向け、目的を共有する様々な機関・組織とのエンゲージセッションが設けられ、グループメンバー以外も多く出席した。

* <https://legalinstruments.oecd.org/en/instruments/OECD-LEGAL-0496>

** https://www.oecd-neo.org/jcms/pl_87046/roadmaps-to-new-nuclear-2024

4. 主要日程

9月17日 東京発

18日 HLG-GB第2回会合(第1日)開会、各タスクフォースの活動状況報告等

19日 HLG-GB第2回会合(第2日)各タスクフォースに分かれてのセッション等

20日 HLG-GB第2回会合(第3日)

パリ出発

21日 東京着

5. 場所: OECD カンファレンス センター、2 rue André-Pascal、75016 Paris

6. 概要:

【第1日(R6.9.18)】

15:00-16:00 参加登録:

HLG-GB 正規メンバー一覧を添付1に示す(オンラインでの部分出席者、欠席者も含む)。

16:00-17:00 開会

フィオナ・レイメント HLG-GB 議長(マンチェスター大学ダルトン原子力研究所原子力政策・能力開発担当教授、元英国立原子力研究所最高科学技術責任者)の開会に当たっての歓迎のあいさつ、及び事務局を務める OECD/NEA 放射線防護・原子力安全人的側面課(RP-HANS)のニーナ・クロムニエ課長から、マグウッド OECD/NEA 事務局長のメッセージが伝えられた。いずれも、リソースに限りがあることに言及し、優先順位付け、リソース調達への協力を求められた。

出席者の自己紹介があり、併せて Attract TF の共同議長の交替予定にも言及された。写真撮影(下記)をはさみ、事務局より、ジェンダー・バランス活動の意義、NEA での関連活動全体の紹介があった。



集合写真



開会セッションの様子



開会セッションでの岡田委員

17:00-17:45 HLG-GB 各タスクフォースのプレゼンテーション

4つの TF の共同議長から、HLG-GB 作業計画文書(PoW:Programme of Works)に基づく活動を進めている状況に関するプレゼンテーションがあった。

Data TF: ベッキー・プレザント共同議長(英国)より発表。他の3つの TF の活動の進捗モニタリングが重要な機能である。規制機関からのデータを収集し、分析し報告する。具体的活動を始めたところ。最終的には、オンラインのインタラクティブ・ポータルを作成する。

Attract TF: 井上尚子共同議長より発表。パブリック・コミュニケーション、教育パイプライン強化、バランスの取れた採用の3本柱を重視。2023年には[ビデオを作成し、今年の国際女性デーにリリース](#)した。グッド・プラクティス情報の収集・分析のため JAEA に支援グループを立ち上げた。これを「フライヤー」にまとめる。今後開催を求められるワークショップは、NEA の「[原子力教育・科学技術・政策に関するグローバル・フォーラム\(GF\)](#)」との協働を視野に入れ、新たな活動である「クリック・オン・ニュークリア」(学生の志望行動の分析に、マーケット分析手法のコンバージョン・ファネルを応用)も検討していく。

Retain TF: メリナ・ベリンコ共同議長(アルゼンチン)よりオンラインで発表。ワークショップの開催と共に、[Women in Nuclear\(WiN\)グローバル](#)とのメンタリング・プログラムを計画。ワークショップでは、ジェンダー影響の素になっている要因を収集し、グッド・プラクティス集を作成したい。

Advance TF: アンドレア・コック共同議長(米国)より発表。原子力分野のリーダーとして女性を育成し、貢献を高めるリーダーシップ・プログラムを予定。Retain TF の活動と重なる部分も多く、調整していく。

17: 45~18:45 エンゲージメントセッション、まとめ

国際的な原子力関連の2組織の代表者からの講演を聴講し、翌日以降に向け簡単なまとめを行った。

国際原子力機関(IAEA)

ミハイル・チュダコフ事務次長兼原子力エネルギー(NE)局長がオンラインで、IAEA のジェンダー・バランス関連活動を紹介。グロッシ事務局長は、2025 年にジェンダー・パリティ達成という目標を掲げている。NE 局は 2021 年には 35%だったが、2024 年現在 46%を達成。若手女性支援として、マリー・キュリー奨学金プログラム(MSCFP)、リーゼ・マイトナー・プログラム(LMP)を進めている。LMP、MSCFP 対象者の、その後のフォローは重要であり、リーダーシップ、ネットワーキングという点でも有効。

世界原子力協会(WNA)

サマ・ビルバオ・イ・レオン事務局長がオンラインで講演。現在、セクター大では 20%しか女性がいなく、「原子力3倍化」を真剣に狙うなら、この問題は重要。世界原子力大学(WNU)は長く続けており、IAEA とも協力関係を築けた。原子力を魅力的に見せて、リーダーシップのパイプラインに女性を取り込むことが重要。WNU の女性参加率は 40%にまで上がってきている。

【第2日(R6.9.19)】

9:00-11:30 タスクフォース毎の分科会

日本メンバーは、日本が共同議長を務める Attract TF の会合に出席。

HLG-GB の前身であるタスク・グループ(GB-TG)時代から、アンケートでベストプラクティスを調査し、分析を続けてきた。この活動は、HLG-GB の PoW には明示的に残されていないが、PoW が求めるワークショップをこのテーマで実施する方向が考えられる。

IAEA 内に新たに立ち上げたサポートチームが分析を支援。次ステップは、複数の有用なベスト・プラクティスをシェアするための「フライヤー」の作成が課題となっており議論した。岡田委員から、「これは良い調査であり、フライヤーにまとめているのはよく、読者へのヒントを与える。簡単でインパクトのあるものがよいと思う。特に、原子力の新規導入国に対して有効なヒントになる。」と、全体を方向付ける意見を表明。フライヤーのデザイン作業等のリソースが今後の課題と認識された。

新たな活動として、より大きな集団へのアクセスを可能とするデジタルツール「クリック・オン・ニュークリア」のアイデアについて、NEA 事務局より紹介があった。GF、[WiN グローバルヤング・ジェネレーション\(WiN-YG\)](#)とも協力しながら、若い世代に共感を得られるメッセージを公開し、クリックしてもらうことで、どんどんと新たな深い情報が提供される仕組み。先ず、多くの人にビデオを見てもらい、この先に進むためのアクションも用意しておく。これを多段に設けて、どの段階でどの程度がふり落とされるかを知ることができる。それを見ること

で、強化すべきポイントを特定する。スタート段階を千人規模にしようと思うと、対面のスクールでは不可能であり、オンラインが必須との説明。

NEA 事務局より、GF と協調して、クリック・オン・ニュークリアのパイロット試行を進めることについて提案があったが、井上共同議長は、その成果を使って何につなげるかが難しいので、次ステップとして何を考えるべきかの議論を継続したいとの意見があり、先ずはフライヤーを優先し、継続検討となった。

今後の協力パートナーとなる可能性のある Win-YG のガヤトリ・カルニク氏も出席し、活動の紹介があった。STEM に限定しない内容の“INSPIRE”というプログラム(修士課程相当)など教育面での活動を展開しており、核融合、AI などにも幅を拡げている。オンラインセッション 3 件を 2025 年に立ち上げる。やはりリソースが課題。

11:30-13:00 昼休み

13:10-15:00 Roadmaps to New Nuclear 会議:「グローバルサプライチェーンと人材育成の優先事項」セッション聴講

フィオナ・レイメント HLG-GB 議長の特別講演を含む、メインイベントでのセッションを聴講。

「労働力開発とジェンダー・バランスに関する特別講演」(フィオナ・レイメント、HLG-GB 議長)

原子力セクターで働く女性割合は 20%程度に過ぎず、これから原子力拡大の時代を迎えるにあたり課題である。NEA はこの認識の下で活動を展開し、政策文書として理事会勧告を発出するに至った。この勧告を実行に移していくために、それまでのタスク・グループ(TG-GB)を、ハイレベルグループ(HLG-GB)に改組した。活動は、女性を原子力セクターに引き付ける(Attract)こと、原子力セクターで働く女性を維持し支援する(Retain)こと、女性のリーダーを育成し視認性を上げていく(Advance)の 3 本柱に対して展開し、活動をモニタする Data とともに4つのタスクフォースを結成して活動を進めている。この動きを誇りに思う。原子力の将来に向けて活動を進めて行きたい。



聴講する岡田委員



講演中のレイメント議長

以降、以下のサプライチェーン上の課題に関する講演、討論、セッションを聴講した。進行中の原子力新設の大半が、非 OECD 国(中国、ロシア)製であることや、サプライチェーンにおけるロシアの影響に関わる話題等が取り上げられた。



メインイベント セッション会場

15:15-17:00 エンゲージメントセッション

米国原子力エネルギー協会 (NEI)、NEA グローバル・フォーラム(前述の GF)とのエンゲージメントセッションが持たれた。NEA 事務局から、GF は年次ワークショップを開催しており、女子大学院生が主たる対象であること、2025 年 11 月に開催の予定であることが紹介された。

米国原子力エネルギー協会 (NEI)

マリア・コーズニック会長兼 CEO より講演。原子力セクターの課題は、女性の維持 (Retain)にあるとの認識で、メンターシップ・イニシアティブを展開している。裏付けとなるデータ収集では、大学とともに、労働団体を通じたパートナーシップも重視している等の紹介があった。

NEA 原子力教育・科学・技術・政策に関するグローバル・フォーラム (GF) / 米国原子力学会 (ANS)

GF で「STEM 専門家のパイプライン構築のための(第6)ワーキンググループ」議長等を務める、米国ノースカロライナ州立大リサ・M・マーシャル教授より講演。講師は ANS の現職会長でもあり、そちらの立場での講演となった。ANS では、Navigating Nuclear 等、教育・知識普及に資する活動も多く展開している。知識素材も用意し、教職員等に利用してもらっている。”Certified Nuclear Professional(CNP)”の資格付与に向けた教育コース”Nuclrear101”も昨年 11 月、試験的に立ち上げた。

【自由討論】

Attract TF 井上共同議長より、リサ・マーシャル氏に対し、Attractの柱の下でワークショップについて、NEA-GF とのコラボレーションの可否を打診。肯定的な回答が得られ、協議を継続することとなった。その他、メンタリングに関するノウハウについて、両講師とのやり取りが活発に行われた。

17:00-18:00 HLG-GB ビューロとタスクフォースの共同議長の会議(拡大ビューロ会議)

レイメント議長からフランクな意見交換を呼びかけ、Attract、Retain、Advance のそれぞれのTFで開催することとされているワークショップ等の活動の計画の進め方、リソースの不足を補うための他組織との連携、エンゲージメントや資金調達についてディスカッションが行われた。

WiN グローバルと連携してのメンタリング・プログラムは、RetainTF が主導しながら AdvanceTF も協働する等、TF 同士で積極的に連携することが決まる等、具体的な進展も見られた。Attract TF はフライヤー作成を進めながら、ワークショップでは引き続き GF との連携を模索し、リソースが新たに必要となればビューロに報告すると表明。

他組織が開催するイベントへの相乗りや、積極的なバーチャル開催の活用等、リソースの節約が改めて奨励された。また、レイメント議長からは、本活動への寄付を期待できる潜在的ドナーを、具体的に特定して働きかけることも考えるべきとの発言があり、それには目玉となる成果物が必要との意見。この場での議論では成果物、ドナーの特定には至らなかった。

18:40-19:40 OECD カンファレンスセンター食堂にてレセプション

【第3日(R6.9.20)】

8:30-9:30 HLG-GB ビューロ会議

全体会合に先立ち、ビューロメンバーによる会合が持たれた。日本からはビューロメンバーの岡田委員以外に、Attract TF の共同議長交代の承認受のため、井上共同議長、生田次期共同議長も出席した。

今後の活動計画と資金調達が主な議題。日本としては、既に1万ユーロを任意拠出(VC)していること、既にJAEAにてサポート体制も組み、アンケート分析・フライヤー作成等で人的貢献も行っていることを強調した。いわゆるインカインドでの貢献を認識することの重要性が共有され、参加各国にVCを求めることも議論となった。

寄付を期待できる潜在的ドナーへの働きかけと目玉となる成果物の議論がここでも提起された。レイメント議長は、NEA 幹部と共に OECD メインイベントに参加している各国代表を通じて模索することも提案。また、目玉となる成果物を他者との連携から見つけるため、各メンバーが参加を予定しているハイ・レベル・イベントをリストアップして共有することを全体会合に諮ることとなった。

岡田委員より、日本の状況(低調なジェンダー・バランス、乏しいロールモデル等)と自身の活動状況(女性運転員との意見交換、組織トップへのバランス改善方策の問いかけ等)を紹介し、この会合のメンバーには、今後も日本の若い女性のための国際的なメンターになってもらいたいと希望。また、日本としては、地域事情を考慮しながら、韓国などと共に東南アジアで原子力利用を推進する人材基盤強化に貢献したいとの希望を述べた。

出席者各位からは、活動への賛辞と共に、メンターは喜んで引き受けるし、Joshikai in Fukushima 等で既に実践もしている、また、地域的な活動も良い考えであると、前向きな受け止めがあった。岡田委員の意見は、この後の全体会合でも紹介することとなった。

また、Attract TF の共同議長交代は無事承認され、次回の全体会合の時期、形態も議論した。(後日、2025 年 4 月 4 日に完全バーチャルで開催と決定)

9:45 全体会合第3日開会

9:50-10:50 各 TF のプレゼンテーション

各 TF より、2024~2026 年の作業計画について、TF 内での議論を踏まえた結果について報告があった。Data TF は、規制当局で働く女性を対象としたアンケート調査、分析、レポート作成及びオンラインのデータ・リソース・ポータルを作成。Attract TF はグッド・プラクティスのフライヤーを作成するがデザイン性を高めるためのリソースを要望、クリック・オン・

ニュークリア、ワークショップについては GF との連携も含め、別途、議論を進める。Retain TF は、ベスト・プラクティス集の初期版を発行し、ウェビナー、ワークショップにつなぐ。Win グローバルとのメンタリング・プログラムは、Advance TF との協働で実施。Advance TF 自身は、リーダー育成につながるワークショップ開催する方向で議論。e ラーニング作成等、他のアイデアもあり絞り込んでいく。

10:50-11:50 若手プロフェッショナルとのエンゲージメントセッション

Win-YG より 3 名の代表者が参加し、若手の問題意識を述べ、HLG-GB メンバーが経験に基づき意見を回答する形での議論が活発に行われた。HLG-GB メンバーは、国際的なネットワークキングの重要性、機会を自ら取りに行く果敢な姿勢、お互いが裨益する関係づくり、長期的視野を持つこと、メンターを待つばかりでなく自身を磨くこと等を助言。岡田委員からは、本日のような機会を活用して国際的につながってほしいとの希望を述べた。

11:50-12:03 HLG-GB 作業計画、リソースに関する次のステップ及びまとめと事務連絡

直前のセッションが長引いたため、①レイメント議長より、HLG-GB 活動との連携の機会を探るため、2025 年、2026 年のハイ・レベル・イベントでめばしいものを連絡してほしい、②アレシア・ダンカン副議長(米国)より、米国が3万ドルの VC を行うとの表明が、急ぎ、行われた。

また、ビューロ会議での約束事項である、岡田委員からのアジアに関する意見表明も、ここで行った。これを受け、レイメント議長から、活動の地域化というアイデアはあり得るとの認識を示された。

12:03 全体会合の閉会

レイメント議長より、謝意を含めた挨拶と共に、次回会合については事務局より追って通知する(後日、2025 年 4 月 4 日、バーチャルで開催と連絡あり)との予告を以て、第 2 回 HLG-GB 全体会合は正式に閉会となった。



レイメント議長と岡田委員



アジアから全体会合への参加者
(岡田委員、韓国代表パク・ジョン氏、井上 TF 共同議長)

午後は、メインイベントのブレイクアウト・セッション「PLAN35:多様でインクルーシブなジェンダー・バランスの取れた労働力の構築」を聴講し、帰国の途についた。

[Ⅱ] 国際メンタリング・ワークショップ Joshikai in Fukushima 2024 への出席

1. 出張期間

令和6年7月27日～29日

3. 目的

OECD/NEA は、より多くの女性が STEM 分野でのキャリアを追求するよう奨励し、ジェンダー・ギャップ解消と原子力セクターへの強力で多様な人材パイプライン確立に資するため、加盟国やパートナーと共同で国際メンタリング ワークショップを開催している。我が国では、原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)が主催者となり、NEA と共催する形で「国際メンタリング・ワークショップ Joshikai in Fukushima」*として、福島復興と関連付けながら開催してきている。

今回、岡田委員に対し来賓としての挨拶を求められたため、それに応ずるとともに活動を視察するため、出張した。

* <https://ndf-forum.com/joshikai/>
https://www.oecd-neo.org/jcms/pl_95274/-you-can-do-it-mentoring-workshop-in-fukushima-encourages-girls-to-pursue-stem-studies

4. 主要日程

7月26日(金) 東京発、福島着

27日(土) Joshikai in Fukushima Day 1

関係者挨拶、基調講演、メンター講演、グループ・ディスカッション等
レセプション

28日(日) Joshikai in Fukushima Day 2

特別講演、伝承館視察、福島レクチャー、
国内外の生徒による発表、円卓討議等

29日(月) Joshikai in Fukushima Day 3(福島第一原子力発電所視察)
福島発、東京着

5. 場所:

- メイン会場: 双葉町産業交流センター(F-BICC) (福島県双葉郡双葉町)
- 視察場所:
 - ・ 東日本大震災・原子力災害 伝承館
 - ・ 浅野燃系株式会社双葉事業所 燃系工場
 - ・ 福島第一原子力発電所及び東京電力廃炉資料館

6. 概要: 以下に示す。

プログラム等の詳細は、主催者のホームページ(<https://ndf-forum.com/joshikai/>)に詳しい。

国内から 41 名(うち 28 名は福島県内)、海外(米国)から 4 名の女子高校生、引率の先生 10 名(うち 1 名は米国より)が参加。国内外から 10 名の女性メンターが体験に基づく講演を行うと共に、グループ・ディスカッションでのメンタリングを受け持った。

岡田委員は、開会に当たり、来賓として以下の趣旨で挨拶し、原子力分野には多様な仕事が存在していることが強調された。

「原子力委員会は、原子力の平和で安全な利用をしていくための基本方針の検討等を行っている。女性参画の拡大もそのテーマであり、自分も力を入れているが、2021年に OECD/NEA が実施したアンケートでは、日本のジェンダー・バランスは各項目で軒並み最下位級だった。

参加された皆さんには、原子力には様々な仕事があることを知ってほしい。原子力委員会は、今、アルファ線を使ったがん治療や、その国産化に力を入れている。核医学や放射化学という分野にも活躍の場があることもぜひ知ってほしい。」



挨拶する岡田委員と参加の女子高校生たち

岡田委員は、その後、参加生徒たちのグループ・ディスカッション、引率先生によるセッション、各視察に参加。女子高校生や先生の生の声に接すると共に、国内外メンター等による講演も聴講した。



グループ・ディスカッション



メンター・主催者集合写真



福島第一サイトにて

【所感】

非常に内容豊富で充実したイベントであり、女子高校生が進路を考える上で大きなきっかけを与え得るものになっている。引率の先生にとっても、経験や悩みを共有する機会になっており、有意義なものとする。一方、数多くの国内外からの参加者が分刻みでプログラムをこなしていくものであり、開催に当たってのホスト側の負担も大きいものと感じられた。

以上

原子力セクターにおけるジェンダー・バランス改善のためのハイレベルグループ(HLG-GB)メンバーアルゼンチン:

ガブリエラ・アコスタ: アルゼンチン原子力規制庁(ARN) 不拡散政策サブマネジャー

メリナ・ベリンコ(Retain TF 共同議長): アルゼンチン原子力委員会(CNEA) 国際機関担当課長補佐

オーストラリア:

パメラ・ナイドゥー・アメグリオ(ビューロメンバー):

オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO) 原子炉運転及び核医学グループエグゼクティブ

ベルギー:

ミシェール・コエック: SCK CKN 原子力科学技術アカデミー ディレクター

ブルガリア:

ステファカ・ヴァシレヴァ・ペトロヴァ: コズロドイ原子力発電所 管理統制部門長

カナダ:

ジュリア・クロプリー(Data TF 共同議長): カナダ原子力安全委員会(CNSC) 戦略計画局長

リサ・マクブライド(HLG-GB 副議長): Women in Nuclear(WiN) -カナダ会長

チェコ:

ヤナ・シムコヴァ: 産業貿易省 国際協力上級専門官

フランス:

アンドレア・バクラタ・キュービッチ: 原子力・代替エネルギー庁(CEA) カダラッシュ ラボラトリ長

マリーフランス・ベリン(Attract TF 共同議長):

放射線防護・原子力安全研究所(IRSN) 理事会議長

ハンガリー:

アンドレア・ベアトリクス・カダール: ハンガリー原子力庁(HAEA) 長官

イタリア:

ジャーダ・ボシェリーニ: 原子力発電所管理会社(SOGIN)

日本:

岡田往子(ビューロメンバー): 原子力委員会委員

韓国:

パク・ジヨン(Advance TF 共同議長): 経済社会研究院技術政策センター長

(続く)

オランダ:

イリヤ・ヴィット=ホールンヴェグ:原子力安全放射線防護庁(ANVS)業務運営・情報部長
エドウィン・ワーナー:原子力安全放射線防護庁(ANVS)組織・人事シニアアドバイザー

ポーランド:

マリエ・イドリン:ポーランド気候・環境省代表

ルーマニア:

コルネリア・コドレアヌ:原子力・放射性廃棄物庁 事務局長
ラモナ・ジョルジアナ・ポペスク:原子力・放射性廃棄物庁 原子力計画部長

スロバキア:

ズザナ・ピシュテコバ:スロバキア共和国原子力規制庁公務員室長

スロベニア:

ロマナ・ジョーダン:ヨージェフ・ステファン研究所(JSI) EU 担当アシスタント・ディレクター
イヴァ・パルハベック:JSI ジェンダー平等・倫理・紛争解決フォーカルポイント

スウェーデン:

アンナ・スコッコ:スウェーデン放射線安全機関(SSM)人事部長

トルコ:

ベルナ・ユクセル:
トルコ・エネルギー原子力鉱物研究所(TENMAK)ホウ素研究所(BOREN)製品・技術開発部長

英国:

マリア・アルテアガ:Women in Nuclear(WiN) -英国 渉外部長
ベッキー・プレザント(Data TF 共同議長):
コージェント・スキルズ社 原子力技能戦略グループ 原子力技能部長
フィオナ・レイメント(HLG-GB 議長):
マンチェスター大学ダルトン原子力研究所原子力政策・能力開発担当教授

米国:

アレシア・ダンカン(HLG-GB 副議長):
米国エネルギー省(DOE)国際原子力政策・協力担当副次官補
アンドレア・コック(Advance TF 共同議長):
米国原子力規制委員会(NRC)原子炉規制局(NRR)次長

注)上記は、会合にはオンライン(部分)出席、欠席したメンバーも含む。また、会合には、この他に
TF、関連機関・組織、招待国(ケニア、UAE)からの参加者も多くあった。